（別紙様式２－２）

道徳教育地域支援委託事業実施報告書（令和７年度）

１　学校の概要

⑴　学校名　　高松市立牟礼中学校

⑵　所在地　　高松市牟礼町牟礼４６番地２

⑶　学年別児童生徒数及び学級数、教員数

第１学年	第２学年	第３学年	特別支援学級	児童生徒数計	教員
４学級 １３０名	４学級 １２１名	４学級 １１５名	４学級 １５名	３８１名	２８名

２　研究主題等

⑴　研究主題　　なかまとともに豊かな心を育む道徳教育　～自己を見つめ、互いに高めあう授業の工夫～

⑵　研究主題設定の理由

本校では令和６年度より道徳教育を軸にした教育活動を行っている。それ以前の７年間は人権・同和教育を基盤とした教育課程を編成してきた。そこで、人権・同和教育で培われた互いに認め合う集団の中で、他者との対話を通して自分と向き合い、自分のよさに気付き、互いに高め合える道徳の授業を目指したいと考えた。令和６年度は効果的に対話を取り入れた学習活動の工夫や、題材を自分事として捉えて考えを深められるような発問について研究した。令和７年度も対話を取り入れた学習活動を定着させるとともに、教員の負担感の少ない、持続可能な研究を続けていきたいと考えた。

本校は地域との結びつきが強く、地域の行事やボランティアに参加する生徒も多い。総合的な学習の時間に行っている「ふるさと学習」など、他の教育活動と連携し、改めて地域社会の一員として郷土について考える機会を設け、郷土を愛する心を育てたいと考えた。令和６年度は継続して行える地域教材について研究を行った。令和７年度は、その研究をさらに定着・発展させるために、令和６年度の研究を基盤とした、授業実践を行った。

⑶　研究内容及び方法

本校は令和元年より人権・同和教育の観点からなかまづくりを行っている。朝の時間に、３、４人の小集団で行う「ほっとトーク」、体育祭や合唱コンクールの前後に各クラス行う「クラスミーティング」、学期や学年の節目でなかまとつながることで成長したり変化した自分自身のことについて話をしたりする「学年団ミーティング」を中心になかまづくりを進めている。対話のルールを確認しながら、話し合い活動を通して、自由に自分の思いをなかまに伝えたり、友達の思いを知ってその思いに共感したりすることで、誰もが居心地のいい学級・学校づくりを目指している。その学級・学校づくりを基盤に、令和６年度より継続して全教員で道徳教育を行っている。

① 校内研修の充実

・現職教育推進委員会を中心とした研究組織づくり

・授業参観のための時間割の工夫

・授業検討の仕方の工夫

② 地域・保護者への情報発信と連携

・学校ブログでの発信

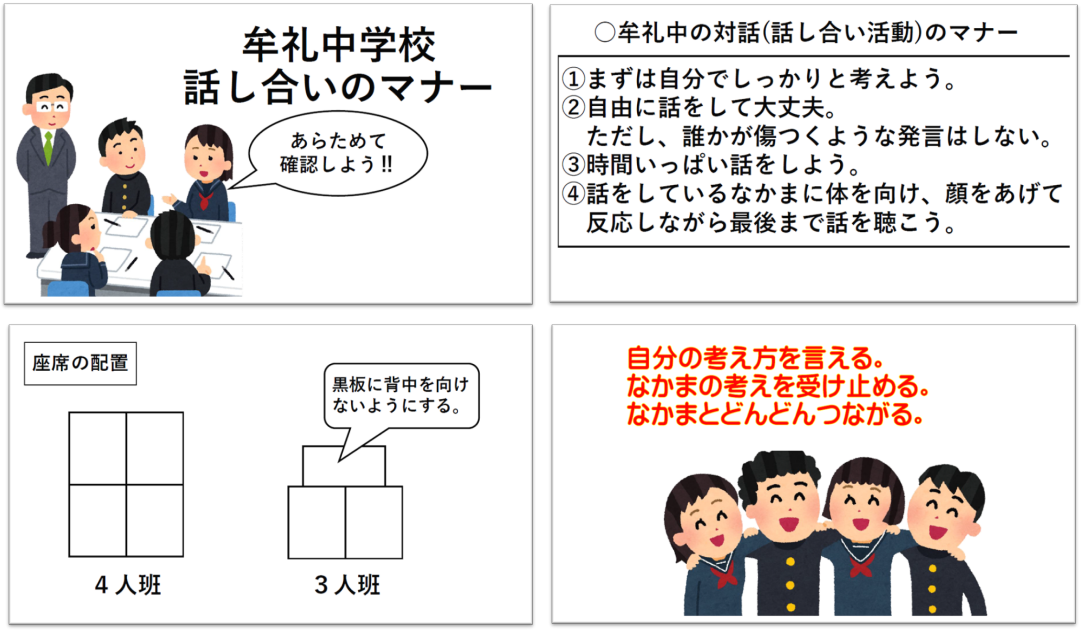
・学年通信、学校通信での保護者との連携
・地域の人材を活用した授業づくり
③ 対話を中心とした道徳科の授業づくり
・対話の形態、マナーの統一
・対話の質の向上（多面的・多角的に考えを深めるために）
・発問の改善
④ 道徳教育を中心とした授業づくり
・人権・同和教育との連携
・道徳的実践力を高める各教科の授業

３　研究実践

(1) 対話を基盤とした学習環境づくり

対話の土壌づくりとして、令和元年より「ほっとトーク」、「クラスミーティング」、「学年団ミーティング」を継続して行っている。４月の上旬のこれらの活動を始める前に、学年ごとに対話のマナーについて確認する時間をとり、座席の配置や話し方などの約束を確認する（資料１）。学活や道徳だけでなくどの教科の授業でも統一した約束で行う。安心して話ができる環境を作ることで、学年が上がるごとに自分の意見をしっかり述べられるようになる。

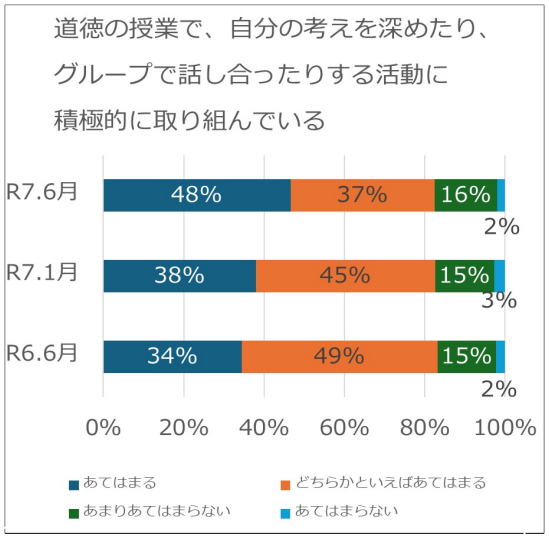
資料１　生徒への対話についての説明



「ほっとトーク」は月に１、２回、朝の学活の時間に３、４人の班になり、答えのないテーマについて話す。前日までにテーマを周知することで、話すことが苦手な生徒は、話す内容を準備して話すことができる。自分の意見を自由に話し、聞いてもらうことで、安心て話せる土壌づくりを行っている。

「クラスミーティング」は学校行事などの前後で、クラスについてのテーマについて、学級全員で話をする。「ほっとトーク」のように少人数で話すのではないため、なかなか話ができない生徒もいるが、回数を重ねるごとに、多くの生徒が進んで発言ができるようになる。受容的な雰囲気が醸成されてくると、生徒の発表する意見の中には、自分の弱い部分などを述べる生徒もおり、周りの生徒から受容的な声掛けがされる場面もよくある。進行役の教員は生徒の話したい気持ちを尊重し、発言をする生徒がいなくても待つように意識している。

「学年団ミーティング」は年に１、２回、学年団で重要なタイミングで行う。今年度は宿泊学習や年度終わりに行う予定である。１年生の宿泊学習で行った学年団ミーティングでは、「ありがとうの気持ちを伝えよう」をテーマにミーティングを行った。初めての学年団ミーティングだったため、様子を見ていた生徒たちも、一人の発言をきっかけに、多くの生徒が挙手をして発言を行った。涙ながらに感謝を伝える生徒や、普段人前で発言することが苦手な生徒など、多くの生徒が学年団全員の前で発言することができた。生活記録には、勇気を出して発表してよかった、発表を聞いていて涙が出た、などの意見が見られた。



資料２　学校生活アンケートから

これらの活動を通して、受容的な雰囲気が醸成され、安心して対話できる雰囲気作りができてきている。生徒の学校生活アンケートからは、「道徳の授業で、自分の考えを深めたり、グループで話し合ったりする活動に積極的に取り組んでいる」という質問に対し、肯定的意見が８割を超えている（資料２）。

⑵ 校内研修の工夫

①　全教員の共通理解

毎年年度末の人事異動により多くの教員が異動となるため、年度初めに現職教育主任・道徳主任から道徳の授業の実施方法・研究方法についての概要や「対話のマナー」（資料３）などの具体的な説明を行った。また、１学期と夏休みに香川大学の植田和也教授から研究の視点や方向性についてご指導いただいた。全教員で共通理解のもとに道徳の授業を行うという意識を高めることを目的としているため、これらを年度内の早い段階で行った。

校内研修の様子

本校では道徳の授業を学年団の教員全員で行っている。担任が行う「担任道徳」、副担任が１つの教材を全学級で行う「ローテーション道徳」、１つの教材を担任がリレー形式で行う「リレー道徳」を組み合わせている。

担任道徳では、学年団の学級担任が別々の教材について研究を行い、指導案やデジタル教材、ワークシートなどを他の学級担任と共有して授業を行う。教員の教材研究の時間が減るだけでなく、教材を共有したときに授業のポイントなどについての打ち合わせが可能であるため、若年教員も授業計画がしやすいという利点がある。

ローテーション道徳では、学年主任や副担任が１つの教材で全学級の授業を行うため、教員自身がその教材を深く理解したり工夫したりすることができる。また、担任とは違った視点で生徒を見ることができる。

リレー道徳は、年に数回、重点課題や研究テーマとなる題材について行う。学年の教員全員で１つの題材について教材研究を行い、指導案を作成する。その指導案をもとに１クラスずつリレー形式で授業を行う（資料３）。昨年度は時間割を変更してリレー道徳を行うこともあったが、ローテーション道徳と組み合わせることで、時間割に位置付けた道徳の時間に安定してとることができるようになった（資料４）。

資料３　リレー道徳について

資料４　授業実施計画（リレー道徳とローテーション道徳）

	1組		2組		3組		4組		参観者
	教材	授業者	教材	授業者	教材	授業者	教材	授業者	
1週目	A	担任1	B	副担任1	C	副担任2	D	副担任3	担任234
2週目	D	副担任3	A	担任2	B	副担任1	C	副担任2	担任134
3週目	C	副担任2	D	副担任3	A	担任3	B	副担任1	担任124
4週目	B	副担任1	C	副担任2	D	副担任3	A	担任4	担任123

②授業研究の仕方の工夫

授業検討の時間が十分にとれない問題を解消するため、昨年度より、職員室内で空いた時間に検討を行っている。職員室内に学年ごとにホワイトボードを設置して、板書の写真や指導案を掲示する。参観した教員と授業者が良かった点や改善点を付箋に記入して貼っていく。常に職員室内に板書の写真があるため、職員室に教員が２人いるとすぐに授業検討が行えるという利点がある。他の学年の授業の様子が分かり、過年度の実践を踏まえて他学年に助言する場面もあった。また、長期休業中など時間の取りやすいときは、全員が集まって教材研究や模擬授業を行う。メリハリをつけて授業研究を行うことで、学年団の教員が揃ってまとまった時間が取れない場合でも、常に教員同士で情報交換し、道徳の授業について教員間で話し合っている。昨年度から継続して行っていることで、全教員で道徳教育に取り組む雰囲気が根付いてきていると考えられる。

⑶ 地域と連携した授業づくり

内容項目Ｃ（16）「郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に畏敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展につとめること」の１年生の地域教材の開発を、令和５年度より行っている。

牟礼町には、石材産業や地域の祭り、地域に根差し、生活の中で生まれてきた文化が多数ある。令和５年は地域の祭りに携わっている獅子舞の保存会の方々にインタビューし、教科書の教材「夢を諦めない―『ねぶた

師』北村麻子」（光村図書　１年）を深めるために、動画を使って授業を行った。保存会の地元の生徒には身近な教材であり、新しい発見や気付きがあった。課題としては次の３点などが挙げられた。１つ目は、保存会のある地域以外の生徒との意識の差が大変大きいこと、２つ目は教科書の教材のねらいと自作動画のねらいの統一ができなかったこと、３つ目は教員の負担が大きいことである。教科書の教材を自分事として捉えやすくするために地域教材を用いたが、ねらいが多岐にわたり、郷土愛に特化した教材にならなかった。また、保存会の方々との連携や動画の撮り直しなど、教員の負担が大きく、改善を加えながら次年度も継続して行うことは難しいと考えた。

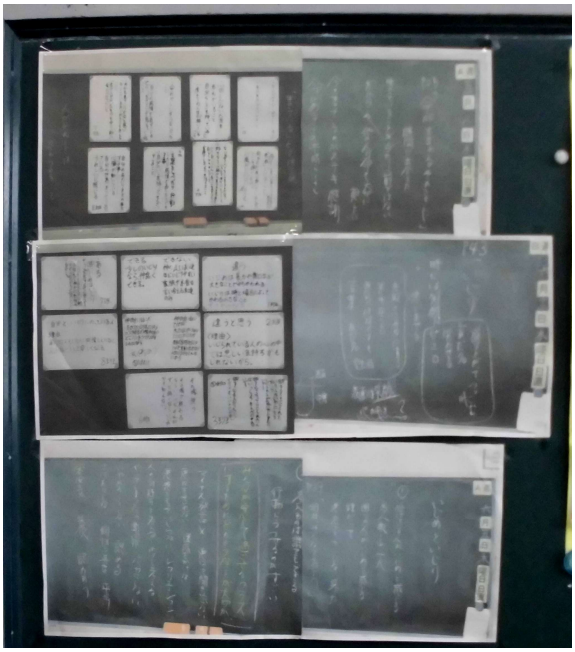
そこで昨年度は、郷土愛（内容項目Ｃ（16））をねらいとする教材である「なおしもん」（光村図書　１年）を基盤として、総合的な学習の時間に行った「ふるさと学習」で学んだことを通して授業を行った。牟礼町への思い、また郷土のために自分にできることについて考えた。教科書の教材を基盤として、総合的な学習の時間のまとめを使ったことで、生徒に身近な内容となり、自分事としてしっかり考えることができた。また、教員の負担も軽減され、次年度以降も継続して行えると考えた。しかし、教科書改訂により「なおしもん」が削除となり、令和７年度は別の教材で授業を行うこととした。

今年度は「なおしもん」に代えて「自分の地域の『宝』って？」（光村図書　１年）を基盤とした授業を行った。「ふるさと学習」で学んだことを通して「宝」について考え、牟礼町への思いを深めることができた。総合的な学習で学んだことをさらに深めて考えることができること、「なおしもん」よりも教材を読むのにかかる時間が短くなり、来年度以降も継続して行えると考える。

４　研究の成果と課題

昨年度から全教員で道徳の研究と授業実践を行ってきた。教職員による教育評価では、「道徳の授業は、学年内で共通理解を図りながら計画的に行っている」という質問項目に、95％の教員が肯定的回答をしており、昨年の90％からさらに増加した。保護者アンケートの「道徳的な心が育っていると思いますか」という質問への肯定的な回答は昨年に引き続き約95％であった。生徒の学校生活アンケートの結果（資料２）も踏まえ、学校全体で、仲間づくりを基盤とした道徳の授業が推進できていると考えられる。

資料５　教室掲示（授業の板書の写真）



また、昨年度の道徳で学んだことが実生活にあまり生かせていないのではないかという反省点から授業で学んだことを生活の中で意識できるようにする必要があると考えた。その手立てとして、今年度は授業の板書や生徒の意見を教室に掲示することとした（資料５）。休み時間に掲示を見て友達と話をしたり、生活記録に思いを書いたりと授業後も道徳で学んだ内容について振り返る生徒の姿が見られた。来年度も全学級で板書の掲示を行い、道徳的な実践意欲と態度を育てていきたい。

本校では、普段から道徳科の授業の指導案、略案、ワークシートなどのデータを共有フォルダに保存し、次年度も継続して行えるようにした。積み重ねてきた研究の成果を次年度も活用し、無理なく継続して道徳の授業を行っている。令和８年度の研究大会を一つの目標として研究・実践を行っているが、それ以降も無理なく続けられる環境づくりを現職教育主任、道徳主任を中心に全教員で行っていきたい。

指導案１

第１学年２組　道徳科学習指導案

１　日　時　　令和７年１０月１日（水）第５校時

２　主題名　　他者とわかり合うために【B-(9)相互理解、寛容】

３　ねらいと教材名

（１）ねらい

街中で声をかけたのに無視されたと感じる場面と、SNS 上で送信した内容に対して返信がないことに不安を感じる場面を踏まえ、相手の立場に立って考え、自分の思い込みだけでなく他者の考えや思いも踏まえたうえで行動することの大切さに気付かせる。

（２）教材名「わかり合うために」（出典：「中学道徳１年　きみがいちばんひかるとき」光村図書）

４　主題設定の理由

（１）本資料は、実生活でもよくありそうな、他者に対して不快感を抱いてしまう二つの事例を漫画にした教材である。主人公として登場するＡさん、Ｂさんを共感的に捉えつつ、Ａさん、Ｂさんにとっての「他者」の視点に立つことで、行為の背景にあるさまざまな理由を想像し、生徒同士の対話を中心に展開することができる教材である。

（２）本学級の生徒（男子１９名、女子１５名、計３４名）は落ち着きのあるクラスである。積極的に自ら発言する生徒も少数ではあるがいる。それぞれ自分なりの思いや考えをもっており、こちらからの問いかけや質問に的確に答えたり、グループワークや話し合いに積極的に参加したりできている。また、近年ＳＮＳ等で目立つ「炎上」や「吊し上げ」などからもわかるように、社会全体が不寛容になってきているといわれる。生徒の間にも、そういった不寛容さに対する恐怖が付きまとっている。

（３）本授業では、自分と異なる他者とわかり合うことについて考え、一方的な見方で判断せず、相手の立場や考えを理解・想像し、尊重しようとする実践意欲と態度を育てたい。そこで以下の点に留意して指導を行いたい。

・中学生の身近にありそうな事象を取りあげることで、本時への意欲を高める。
・ホワイトボードでの交流や少人数でのグループワークを取り入れ、自分の中にもっている思いや考えを自分の言葉で発言しやすい環境をつくる。
・自分の経験や教師の経験を語り、本時の学びが心の中のわだかまりを消化するかもしれないという期待をもたせたい。

５　本時の学習指導

（１）準備物　ワークシート、写真（挿絵　教科書 P87）
GIGA 端末、電子黒板、ホワイトボード

(2) 学習指導過程

	学習活動 ・予想される生徒の反応	指導上の留意点 ★対話を重視した活動
導入	1　３分前入室を呼びかけているが、聞いていない人がいることについて考える。	・学級委員や呼びかけをしている人の立場に立って考えるために、自分が呼びかける側だったらどう思うのか考えさせる。
展開	2　資料を読んで考える。 **お互いを「わかり合うために」大切なことはなんだろう。** （1）場面①で、最後のコマ中のＡさんの吹き出しに入る気持ちやことばを考える。 ・「自分中心」 無視されて悲しい（腹が立つ） ・「相手の立場」 自分の声が小さくて聞こえなかったのかな 何か事情があったのかもしれない （話に夢中だった・耳が聞こえない） （2）場面②で「Z さんが、B さんのメッセージに返事をしなかった理由」を考える。 ・Z さんが忙しかったのかもしれない。 ・Z さんのスマートフォンを親が持っていたのかもしれない。 ・Z さんのスマートフォンの充電がなくなったのかもしれない。 3　相手の立場になって考えることで、どのようなよさがあるか考える。 ・トラブルや喧嘩が減る。 ・誤解が減る。 ・イライラしたり怒ったりすることが減る。	・教師による範読をする。 ・生徒の意見をつなげるために、机間巡視の際に様々な意見を取り上げて線を引き、後で発表させる。 ・教科書は開かせず、吹き出しを白紙にしているワークシートを使う。 ・生徒の考えを「自分中心」の考えと「相手の立場」を考えたものにグループ分けする。 ★多様な視点で考えるために、班で交流する。 個→班→全体 ・相手の言動が悪いという考えにならないようにするために、相手の立場を想像することが重要であることに気づかせる。 ★多様な視点で考えるために、班で交流させる。 個→班→全体 ・出た意見の主語が誰かを考えさせ、色違いの線を引かせる。 ・相手の言動の背景を想像することが相手だけでなく自分にとっても利点があることに気づかせる。 ・自分の経験と結び付けて考えさせる。 ★多様な意見を出すために、班で交流しホワイトボードを使って共有させる。 個→班→全体
終末	4　授業の振り返りを行う。 ・自分の考えを大事にしながら相手の立場も想像することで、自分の行動や考えを変えることができる。	・振り返り記入後、授業者自身の経験談や学んだことなど、授業者の思いを語る。

(3) 評価

・他者との話し合いの中で多様な考えに触れ、ＡさんやＢさんがどのような理由でこのような行動をとったのか考えることができたか。

・人との関わりの中で、相手の言動の背景を想像することには、どのようなよさがあるか考えることができたか。

指導案２

第２学年４組　道徳科学習指導案

１　日時　　令和７年１０月９日（木）　５校時

２　主題名　　身の回りの善意に目を向けて　【B－(6)　思いやり、感謝】

３　ねらいと教材名

（１）ねらい

　私の気持ちの変化を捉え、私を見守った父の心情を考えることを通して、思いやりをもって人と接するとともに、家族の支えや多くの人の善意により日々の生活や今の自分があることに感謝する態度を育てる。

（２）教材名　気づかなかったこと（出典：「中学道徳２　きみがいちばんひかるとき」光村図書）

４　主題設定の理由

（１）　「中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」では【内容項目 B　思いやり、感謝】について、「思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること」と示されている。

　本来思いやりの根底には、人間に対する深い理解と共感がなければならない。人間愛の精神に基づき、身近な人であっても、知らない誰かであっても思いやりと感謝の心をもって関わろうとすることが大切である。しかし多感な中学２年生の時期には、自分を中心に物事を判断し、狭い視野で現状を批判的・悲観的に捉えてしまうことがある。その結果、思いやりに欠ける言動を周囲の人に向け、身近な人を傷つけてしまうことも多い。そういった言動は、他者を傷つけ、傷つけられた他者は別の誰かを傷つける負の連鎖を生むこともある。他者に対して思いやりの心をもって接することと人々の善意に対する感謝の往還こそ、人間関係を築くうえで欠かすことのできない大切なものであることを考えさせたいと考え、本主題を設定した。

（２）　本学級の生徒は、明るく意欲的に自分の考えを発表する生徒もいる一方で、良い考えをもっていても発言せず、周囲の意見に流されてしまう生徒もいる。事前のアンケートでは「人と関わるときにどんなことを意識していますか。」という質問に対しその場面を問うと、「相手の気持ちを想像する」「しっかりと相手の話を聞く」と答えた。クラスの友だちや部活動で接する先輩や後輩など身近な人との関わりをもつことができているが、学校生活以外の日常生活の中と結びついていないことが分かる。この原因としては、日頃目の前にいる人以外の人に目を向けられていないことが考えられる。自分自身や自分の生活が多くの人の思いやりに支えられていることに改めて気づき、それに対して素直に感謝の気持ちをもち、相手の存在を肯定的に受け止めようとすることの大切さを考えさせたい。

（３）　本教材は、主人公の「私」は、人間の自己中心的な面や、日々報道される事件に「こんな世の中、大嫌い。」と思ってしまう。しかし、ある日、見ず知らずの人に親切にしてもらったことがきっかけで、自分の周りにある善意に気づく。人間の一部分だけを見て、あらゆることに対して否定的になっていた「私」が、人々の善意に気づいたことで、私たちの社会には、思いやりと感謝があふれていて、それでこそ社会が成り立っているのだということを理解する。教材は漫画形式を取っており、内容理解はスムーズにできる。だからこそ、話合いの時間を多くとり、これまでに考えてきた「思いやり、感謝」から一歩踏み込んで考え、意識的に深い話合いをするように促したい。

5　本時の学習指導

（1）準備物　教科書、ワークシート、短冊、太字ペン

（2）学習指導過程

	学習活動	指導の留意点 学習形態
導入	1　社会の中で、これは変だな、おかしいなと思う経験を振り返る。（アンケート） ・挨拶をしたのに無視された ・ポイ捨て ・ちゃんとやっている人が損をする	・事前にアンケートをとり、短い時間で自分の日常生活を振り返る。
	みんなが気持ちよく過ごせる社会にしていくにはどんな考え方が大切だろうか。	
展開	2　「気づかなかったこと」を読み、「こんな世の中大嫌い」と思った理由を考える。 ・電車でぶつかられて「邪魔」と言われたから。	・パワーポイントを使い、教材を前半と後半に分けて範読する。
	3　「私」が気づいた「すごいこと」とは何だろうかについて考える。 ・優しい人もたくさんいるな。 ・世の中捨てたもんじゃないな。 ・温かい行動が身の回りにはたくさんある。 ・優しさにあふれている。	個人　→　ペア ・友だちの意見からも学びを深めさせるために、学級全体で意見を交流する。 ・「すごいこと」が「あたりまえのこと」だと思う生徒がいれば、どうしてそう思ったのか問い返す。
	4　めあてについて考え、意見を交流する。 ・自分も周囲の善意に支えられている事を自覚していたいな。 ・周囲の良い面に目を向けていきたい。 ・自分も感謝を伝えたり、思いやりをもって周囲に接したりしたい。	班　→　全体 ・全体での共有を行うために、大事な部分に印をつけるように指示する。
終末	5　事前アンケートをもとに、「なぜ行動に移せないのか」について考える。 ・周りの反応が気になるから。 ・自分だけがしなくても良いかなと思うから。	個人　→　全体 ・この教材を通して考えたことを短冊に書かせ、生徒と一緒に視点を整理していく。 ・「自分」と「周囲」に分類し、自分と周囲が互いに関わり合っていることに気づかせる。 ・友だちの意見からも学びを深めさせるために、学級全体で意見を交流する。
	6　本時の振り返りを行う。	・ここまで学んできたことを自分の言葉でまとめる。

（3）評価

思いやりをもって人と接することの大切さや、家族の支えや多くの人の善意で今の自分があることを理解し、日常生活の中で人と接する際に何が大切なのかを考えることができたか。

指導案３

第３学年３組道徳科学習指導案

１　日　時　　令和７年１０月１日（水）５校時

２　主題名　　三年目の「ごめんね」　【A-（１）自主、自律、自由と責任】

３　ねらいと教材名

(1) ねらい

自分で考え誠実に行動することはどうして大切なのかについて考えさせ、誠実で責任ある行動を取ろうとする判断力を育てる。

(2) 教材名　　三年目の「ごめんね」（出典：「中学道徳３　きみがいちばんひかるとき」光村図書）

４　主題設定の理由

(1)　「中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説　特別の教科　道徳編」では【内容項目Ａ　自主、自律、自由と責任】について、「自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと」と示されている。

誠実は、自己を確立するための主徳であると言われ、Aの視点の内容項目だけでなく、他の視点の多くの内容項目にも関わる価値である。すがすがしい明るい心で、私利私欲を交えず真心を込めて他者や物事にかかわることが大切である。中学校の段階では、学年が上がるにつれて、自我に目覚め、自主的に行動することができるようになる。自由を求める傾向が強くなり、社会通念としての規範や今までの自分の価値観を捉えなおそうとする時期でもある。しかし、自由の意味を履き違えて、社会の規範を顧みない生活を送ったり、また、自分自身の行為が自分や他者にどのような結果をもたらすかということを深く考えないまま、無責任な言動をとったりすることもある。自己の在り方を振り返り、自分や社会に対して、常に誠実であろうとする心を育てたいと考え、本題材を設定した。

本教材では、一人でいる友人に対して勇気を出して声をかけるも、周囲の目が気になり、結局友人を見放してしまった「私」の物語から始まる。一度は勇気を出して行動に移したとしても、その行動の結果を受け止めきれずに、途中で投げ出してしまうこともある。そういった主人公の弱い側面を共感的に見つめさせながら、自分事としてとらえ、自分の行動に伴う責任から逃げずに、誠実であろうとする気持ちを育てたい。

(2)　本学級は、計30名である。本学級の生徒は、真面目な生徒が多く、学習や委員会活動、部活動など、多岐にわたり熱心に取組んでいる。普段の学校生活では、友人を助けたり、学級のために自らが行動しようとする場面がみられる一方で、私利私欲に流されて途中であきらめたり、級友に心無い言動をとったりすることもある。

授業では、積極的に発言をする生徒がいる一方で、友達の意見に流されて自分の意見をもつことが苦手な生徒もいる。また、自分の意見はもっていたとしても、周りの反応が気になって発表したり、意見交換したりすることに消極的になることもある。

(3)　本時の内容は、誠実であるために大切なことを生徒自身に気づかせたい。本教材には、誠実な行動や不誠実な行動が多くでてくる。誠実であるためには、自分の言動を顧みて不誠実さに気づくことから始まると考える。本教材の登場人物たちの誠実・不誠実を見分け、その場面をもとに誠実とはどういうことか、誠実であるために大切なことは何かを生徒自身が対話を通して考えるきっかけをつくりたい。話し合いの場面を多く設けるためにも、意見の集約を工夫して級友の意見交換が効率的に行われるように働きかけていきたい。

５　本時の学習内容

⑴　準備物　教科書、ワークシート、パワーポイント、赤ペンと青ペン、タブレット

⑵　学習指導過程

	学習活動	指導上の留意点 学習形態
導入	１「誠実」とはどういうことだろう？ ・正直なこと。素直なこと。 ・嘘をつかないこと。 ２「誠実」な行動がとれなかった経験はある？ ・友達に素直に謝れなかった。 ・自分を守るために嘘をついた。	・「誠実」の言葉の意味は、現段階ではおさえない。 ・自分の経験を振り返らせる。 ・自分のマイナスな面をあげるため、意見がでない可能性もある。その場合、事例や教師の経験を語ってもよい。
展開	３「三年目の『ごめんね』」を読む。 ①　物語の中で、登場人物たちの誠実な行動と不誠実な行動を赤と青で色分けしてみよう。 赤→誠実だと思う行動 青→不誠実だと思う行動 ②　グループで誠実・不誠実の場面の意見を出してシンキングツールにまとめて、その共通点を話し合う。 誠実　・勇気を出して伊藤さんに話しかけた。 ・伊藤さんが私にラケットをかした。 不誠実・伊藤さんを誘うのをやめてしまった。 ・みゆきちゃんが私たちを遠ざけた。 誠実の共有点　…相手を思いやる 不誠実の共通点…自分勝手　　など	・生徒によっては、１つの言動に対して誠実だと思う生徒と不誠実だと思う生徒がいる可能性がある。捉え方はそれぞれであるため、考えは多様でよい。 ・シンキングツールは、ベン図を使い、生徒の多様な考えを反映できるようにする。 ・なぜそれが誠実、不誠実であるか理由も話し合えるように促す。 ・グループワークを通して、様々な側面から考えられるようにする。 ・共通点から誠実とは、どういうことかを全体で共有する。 ・自分の経験や社会の事案をもとに考えてもよいことを伝える。 **個人　→　グループ　→　全体**
	人として「誠実である」ことが、なぜ大切なのだろう。 ・すべて自分に返ってくるから。 ・うしろめたいまま、生きるのは自分がつらいから。 ・相手が傷つくから。	
終末	４「誠実」に生きるとはどのようなことかを考え、今日の授業で学んだことを振り返る。 ・他人の目を気にせずに、自分が正しいと思ったことを実行することを大事にしたい。 ・自分本位の考えではなく、相手に対して真心をこめた行動がとれるようになりたい。	・自分自身の今までの経験を振り返り、今日の授業を通して感じたことを感想に記入させる。 ・最後に何人かの生徒が発表し、感想を共有する。

（4）評価　自分で考え誠実に行動することの大切さや自分にできることを考えることができたか。